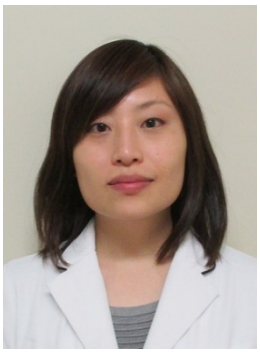
乳腺外来について



乳腺外来（外科）
鳩野 みなみ 医師

現在、日本人女性では乳がんを患う人の数は増加しており、日本人女性の12人に1人が乳がんと言われています(図 1)。30歳代から増加し始め、40歳代後半～50歳代前半と60歳代前半にピークを迎え、働き盛りの世代の女性に多いがんという特徴があります。早期に見つかった場合は、高い生存率が期待できるがんでもあります。

乳腺外来では、各種画像検査を用いてしっかりと診断を行い、手術や手術後の補助療法を患者さんに合わせたオーダーメイドで行っています。

●こんな症状ないですか？

・乳房にしこりを触る
・乳房のへこみやひきつれ、変色
・乳房の疼痛、違和感
・乳頭から分泌物（赤、茶褐色）
・乳頭のただれ、びらん
・わきにしこりを触る

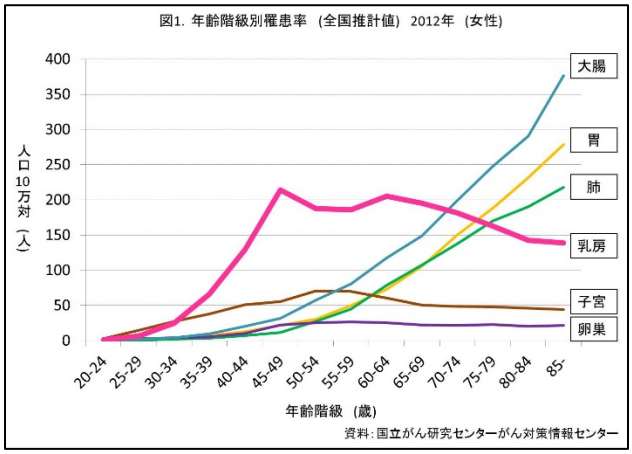


図 1

●こんな検査をしています

・視触診
・マンモグラフィ
・トモシンセシス：画像データを3次元的に再構成し、マンモグラフィより詳細に病変を把握することができます。平成28年3月から撮影可能になりました。
・乳腺超音波
・CT、MRI、PET-CT
・穿刺吸引細胞診、針生検：病変に針を刺して、良性・悪性の診断をつけます。

早期発見が重要です。月に1度ご自分で乳房にしこりや変形などがないか自己検診をしましょう。また、症状がなくても、40歳を過ぎたら2年に1回は乳がん検診を受けるようにしましょう。

当院での検診のみならず、他施設での乳癌検診で要精査の結果が送られてきた方の、2次精査も行っています。気になることがありましたら、お気軽に乳腺外来にご相談ください。